

2019 年度事業報告書

2018年8月1日から2019年7月31日まで

■ 第14期(2019年度)のポイント

① 北神日本語教室

がついに始動！ 多くの
ボランティアさんと活動中！

18年度より準備していた地域日本語教室「北神日本語教室」プロジェクト。北区には多くの外国人住民がいることがわかってきました。外国人住民と日本人住民のよりよい接点を生み出す試みを行っていきます(pp.10-13)

② 大学生×まちづくり

「対話」を通したまちへの
参加の場づくりを実践！

関西学院大学総合政策学部「都市政策演習2」の授業支援や、学生サークルとの連携によって、学生の地域参加のきっかけづくりに取り組んできました。児童館支援もメニューに加わり更なる「出番づくり」に取り組めます。

③ コロナ禍だからこそ、

日常のつながりを
活かした取り組みを！

新型コロナウイルスは「あたりまえ」を変えました。しかし、私たちが大切にしてきた願いや取り組みは、非日常にも(だからこそ)活かされると考えています。そのために、何ができて何ができなかったのか、検討を深めていきます(pp.16-19)

また、私たちの取り組みに共感してくださる方や、各種プロジェクトに関わってくださるボランティアさんも、少しずつ、確実に増えてきました。まちのなかの「小さな事起こし」に、一人ひとりの大切なメンバーとこれからも数多く取り組んでいきます！！

■ 特定非営利活動に係る事業の実施について

1. 市民活動や運営に関する相談事業 (収益 '19 : 1,935 千円、'18 : 1,798 千円)

市民活動に関する幅広い相談支援を実施。ひょうごボランティア基金の助成を受け、相談料は半額の1回1,000円(初回無料)としている。また、緊急事態宣言期間中には、NPO 無料相談窓口を開設した。

1.1. 市民活動団体・法人設立支援

市民活動団体や NPO 法人設立を希望する団体を支援。主に、申請書類作成や運営組織体制づくり、事業報告書作成支援、労務・登記に関するアドバイスをした。

(主な実績)

- NPO 法人猪名川つながり創造研究所(猪名川)：人権のまちづくり活動を行う NPO

1.2. 団体運営・マネジメント支援・組織基盤整備・認定 NPO 取得支援

事業企画の立案や継続、運営体制のあり方についてのアドバイス、NPO 関連の制度や事例、助成金等の情報提供、広報の相談支援、人材のコーディネートを実施した。

(主な実績)

- NPO 法人さわやか北摂・さわやか千の里(川西市)：認定 NPO 取得支援・会議支援
- 認定 NPO 法人まなびと(神戸市)：マネジメント支援、放課後児童クラブの運営支援
- 神戸市ふれあいのまちづくり協議会支援：有馬地区、大原桂木地区
- 神戸市北区まちづくり活動支援助成金取得団体自立支援アドバイザー：大沢地区「準町民制度」
- 長尾児童館(神戸市社会福祉協議会運営：神戸市) 運営相談
【認定 NPO 法人日本 NPO センター「どんどこプロジェクト」を通してのアドバイザー派遣】

1.3. 団体のバックヤード支援

NPO の事務作業を一部代行して実施。特に会計についての依頼が多い。

(主な実績)

- NPO 法人三田市手をつなぐ育成会：会計事務および請求事務支援
- NPO 法人歴史文化財ネットワークさんだ：会計および事務全般の支援
- さんだ楽語協会：事務全般の支援

2. 市民活動に資するネットワーク形成事業 (収益 '19 : 343 千円、'18 : 221 千円)

2.1. まちなか交流企画

(1) まちの読書会

偶数月1回、全4回開催(コロナ禍で延期あり)。書籍に関連するテーマにおいて、自身の身の回りで起きていることとリンクさせながら、まちのこれからについて考えた。事務局だけでなく参加者から書籍・著者の提案をいただくことが定例化し、より多様なジャンルが実施でき、結果として定期的な参加者に加え、新しい参加者を呼び込むことができた。

(実施状況)

回	実施日	書籍名(出版年)	著者	参加者数
④②	2019年10月5日	ハラスメントの境界線～セクハラ・パワハラに戸惑う男たち～(2019)	白河桃子	5人
④③	2019年12月7日	読書会入門～人が本で交わる場所～(2019)	山本多津也	5人
④④	2020年2月15日	日本史は逆から学べ～近現代史集中講義～(2018)	河合 敦	5人
④⑤	2020年4月11日 → 7月11日	水道が危ない(2019) *新型コロナウイルス禍で延期して実施	菅沼栄一郎 菊池明敏	5人

2.2. 夏まつり(三田まつり)／冬まつり(あきんどまつり)での店頭販売

夏と冬の商店街でのイベントにて、夏はわたがしとかき氷、オムフランク、ゲームコーナーを、冬はわたがし、焼き芋を販売した。当日の運営は日常的な関係者に加え、まなびあに来ている子どもたち、この日のために“里帰り”して集まるメンバーもいて、賑やかに開催した。

2.3. シェアオフィス

ほんまち事務所を他団体とシェアしその家賃収益を計上。三田市文化協会と三田市手をつなぐ育成会が入居しているが、三田市文化協会が3月末で退去した(まちづくり協働センターへ)。

2.4. 子ども支援者連絡会議

市内でさまざまな立場で子ども支援に携わっている人たちのネットワークづくりを目的に、情報交換・学習会を隔月開催。現在、登録が21名で、平均参加者数が13名となっている。

2.5. 三田まちの寺子屋「まなびあ」の運営

【公益財団法人キリン福祉財団助成事業】

地域の子どもを地域で支える仕組みづくりを目指し、主に生活困窮家庭・ひとり親家庭の子どもや不登校児者の学校外教育の提供を目的に、地域住民と協働で 2013 年 8 月に立ち上げ。共働き家庭をはじめとしたすべての子どもの、放課後の居場所としてもテーマを拡大し、運営している。友達が友達を連れて参加するなど、参加人数が増えている。また、2017 年 4 月からは三田地区民生委員・婦人会と協働し、子ども・地域食堂「まかないキッチン」にも取り組んでいる。



(スタッフ)

子どもたちの学習支援を担う「まなびサポーター」には、中嶋和哉さんをはじめ三田在住の 20-40 代メンバーに加え、一般市民、ボランティアサークル「SSV 関西学院」のメンバーとともに運営している。月 1 回程度の定例会を開催し、情報共有や対応を議論した。

(広報)

運営委員の大東真弓さん(三田小学校区学校支援ボランティアコーディネーター)の協力のもと、市内小学校等にチラシを配布して PR した。また、関心を持つスクールカウンセラーや、三田市社会福祉協議会「経済的困窮家庭対象の心配事相談」事業(三田市権利擁護・成年後見支援センター)と連携し、必要な家庭への情報提供や子どもの紹介が行われるよう関係づくりができた。また、日頃の様子は Facebook でも発信している。(右の QR コードからページ参照)



(費用)

独立行政法人福祉医療機構の 2013 年度助成金を活用して立ち上げ。2015 年 4 月～2018 年 3 月は公益財団法人ベネッセこども基金の、2019 年 4 月からは公益財団法人キリン福祉財団の助成を受け、ボランティアによる運営を展開。他には、gooddo 社によるクリック募金(2018 年 1 月終了)に加え、地域からの資金(寄付金、協賛金等)を集めて運営している。

	開設時～	2014 年 4 月～	2014 年 7 月～現在
実施日	水曜 15:30～18:30 土曜 13:30～16:30	水曜 15:30～18:30 金曜 //	
場 所	三田ほんまち交流館「縁」		三田小学校区県民交流広場 「じばやんクラブ」
利用者数	小学生～高卒生 平均 4 人	小学生～高卒生 平均 3 人	小学生～高卒生 平均 10 人

3. 市民活動に資する人材育成事業 (収益 '19 : 134 千円、'18 : 397 千円)

3.1. 自主セミナー開催

(1) NPO スキルアップセミナー 【ひょうごボランティア基金助成事業】

NPO 法人を対象に、組織運営に必要な情報やスキルを提供することを目的に開催した。

テーマ	ブラック NPO にならないための、「NPO で働く」の支え方	※春講座は中止
実施日	2019 年 11 月 15 日(金)15:00～17:00	
会場	さんだ市民センター	
講師	三谷文夫さん(社会保険労務士、産業カウンセラー)	
参加数	8法人・団体/12 人	
チラシ 画像		新型コロナウイルス禍における、NPO 相談等に対応したため、講座は開催しなかった。

(2)「まなびサタデースクール」開催

①はじめてのプログラミング

子どもたちのプログラミング的思考力(仮説検証型思考法)の向上を目的として定期的で開催。子どもの成長を願うメンター(ボランティア)からのさまざまなアドバイスもあり、より興味深い作品を子どもたちは作っている。リピーター率も高く、継続して実施していきたい。

※参加者の作品アトリエ:<https://scratch.mit.edu/studios/1741552/>

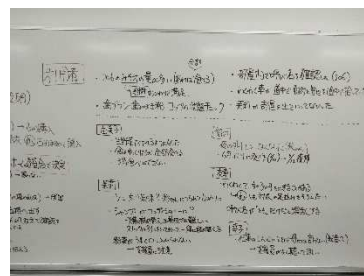
実施日	参加人数
2019 年 9 月 14 日	8 人
2019 年 11 月 23 日	8 人
2020 年 2 月 1 日	8 人
2020 年 6 月 13 日	5 人



(3) ユースワーク研究会「子ども・若者の「声」をきちんと広い、
困りごとに寄り添える地域になるためのコツ」【ひょうごボランティア基金助成事業】

子ども・若者の「つぐやき」を拾い、支援につなぐ一歩目として「ばんそうこう」を貼れる地域住民が増えるよう、地域の子ども・若者を地域が支える仕組みづくりを目指して何をすべきか、を考える講座を開催した。また、参加者同士の地域・テーマを超えたネットワークづくりを行った。

回	実施日	内容	参加者
①	2020年1月19日(日) 13:30~16:30	子どもの声を「聴く」とは？ ～子どもの“安全・安心の原点”を考える 【講師】北野真由美さん(NPO 法人えんぱわめんと堺)	11人
②	2020年2月11日(火祝) 13:30~16:30	地域は子どもの安全・安心を担保できているか？ 【講師】寺本智美さん(スクールソーシャルワーカー)	14人
③	2020年2月22日(土) 13:30~16:30	子ども・若者を支える「家族」を支えるには？ 【講師】渡辺和美さん(ファミリーカウンセラー)	9人
④	2020年3月14日(土) 13:30~16:30	子ども若者が声を上げやすい社会になるために、 私たちに何ができるかを考えよう 【講師】北野真由美さん(NPO 法人えんぱわめんと堺) ※新型コロナウイルス禍のため、中止	—
⑤	2020年6月7日(日) 13:30~16:00	子ども若者が声を上げやすい社会になるために、 私たちに何ができるかを考えよう(オンライン) 【講師】北野真由美さん(NPO 法人えんぱわめんと堺)	7人



3.2. 委託セミナー開催

今期の実施はなし

3.3. 講師派遣

実施日	内容	主催者
2019年8月1日(木) 13:30-15:00	ふらっとチャレンジ ボランティアオリエンテーション「子どもが楽しめる“企画づくりのコツ”」	三田市社会福祉協議会 多世代交流館「ふらっと」
2019年10月11日(金) 19:00-21:00	「ある日、「不登校の家庭」に気づいたら?～私にできる小さな一歩を考えよう」	三田市人権を考える会 地域部会
2019年10月18日(金) 19:00-20:00	子どもの「居場所」、地域でどうやってつくる? ～子どもの貧困問題の今と、地域の出番を考える	三田市立武庫小学校 地域部会
2019年10月24日(木) 15:00-16:30	子どもの貧困と「居場所」、 私たちにできることって?	関西福祉大学 市橋真奈美研究室
2019年10月29日(火) 15:00-16:30	まちづくりを担う人、支える人、つなぐ人～NPO の 多様な広がりと「つながり」がもたらす可能性	甲南大学 帯谷博明研究室

また、三田市立八景中学校より、学力重点支援生徒を対象とした「がんばりタイム」への数学指導員派遣の要請を受け、2016年7月から年間40～50回程度、指導員を派遣している。

3.4. 市民の「やりたい!」を支援する人材インキュベーション事業

市民の「やってみたい」という意欲を、具体的な企画のカタチにするための支援を行っている。

①第1回スマホ講座 ～年賀状を作ろう

地域の高齢者住民を対象に、スマートフォンの使い方や可能性を伝える講座を開催。

日時: 2019年11月24日(日)10:30～12:00
場所: 三田市まちづくり協働センター 創作室(参加者6名)
協力: woodysanda 工房 モリヨコさん



4. 市民活動に関する情報発信事業 (収益 '19 : 0 千円、'18 : 0 千円)

4.1. メールニュース発行

主に毎月 1～2 回メールニュースを配信。主催事業の案内に加え、助成金情報、地域イベント情報を無料で掲載している。現在 216 人に直接送付(前期末比 29 人増)。地域イベント情報は、当団体のボランティアである新納晃重さんが、毎回文字入力してくださっている。

5. まちづくりに資する地域情報化事業 (収益 '19 : 0 千円、'18 : 0 千円)

今期は実施なし

6. まちづくりに資するコーディネーション事業 (収益 '19 : 573 千円、'18:458 千円)

6.1. 大学生のまちづくり参加促進事業

関西学院大学総合政策学部「都市政策演習 2」の演習に協力。13 人の学生に対し、「対話のまちづくり」がテーマの演習を展開。「みんなでまちの未来を話そう、考えよう」と題した企画を実施。

テーマ	希望に満ちた「新しいまち」をつくろう！～造形ワークショップ	三田と大学のつながりを活かしてできることを考えよう
実施日	2019年12月21日(土)10:30～12:30	2019年12月21日(土)14:00～16:00
参加数	12人+学生6人	9人+学生6人

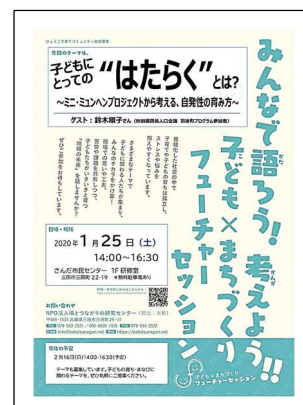
(当日の様子)



6.2. 子ども×まちづくりフューチャーセッション

【ひょうご子育てコミュニティ助成事業】

地域活動をしている人・これから始めようと考えている人を対象に、子どもに関するテーマでの対話の場を行い、課題を共有し、仲間づくりを行うとともに、活動との出会いを作り出すことを目的に開催した。



回	実施日	内容	参加者
③	2019年8月4日(日) 14:00～16:30	子ども食堂ってなにしているところ?? ～参加したい人も関わりたい人も一緒に考えよう～	9人
④	2019年9月15日(日) 14:00～16:30	子どもの権利条約ってなに?? ～“子どもの最善の利益”について考えよう～	8人
⑤	2019年10月12日(土) 14:00～16:30	大学生の今～学生の社会参加を促進するアイデアを考えよう～ 関西学院大学総合政策学部「都市政策演習」共同開催 【台風による特別警報発令のため、中止】	—
⑥	2019年11月24日(日) 14:00～16:30	子どもにとっての安全・安心とは? ～心理的安全性の視点からプログラムを考えよう～	8人
⑦	2020年1月25日(日) 14:00～16:30	子どもにとっての“はたらく”とは? ～ミニ・ミュンヘンプロジェクトから考える、自発性の育み方～ 【ゲスト】鈴木順子さん(秋田県羽後町プログラム参加者)	7人
⑧	2020年3月29日(日) 14:00～16:30	子どもにとっての“郷土愛”はどのように育まれるのか? 【※新型コロナウイルス禍のため、中止】	—



6.3. 在住外国人支援を通したまちづくり支援事業

【2019年神戸市北区まちづくり活動支援助成／兵庫県国際交流協会助成金事業】

神戸市北区北神地域における在住外国人のための日本語教室開設を目標に、2018年度より準備に取り組んでおり、今期その実現に向けた取り組みを行った。【コーディネーター： 本田】

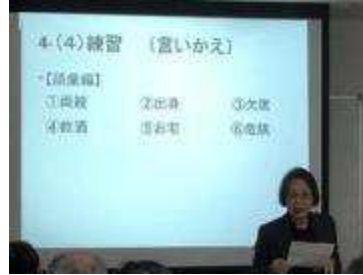
①日本語ボランティア養成講座

在住外国人の困りごとに「気になる人」が増え、課題に気づく人が増えることを願い、在住外国人の悩みを理解し、寄り添う地域人材を発掘・育成するために開催した。日本語ボランティア実践者（講師）から活動体験談を聞くことで、外国人に日本語を教える意義が明確になり、何が必要なのか（方策）、どうあるべきなのか（目標）をはっきりさせることができた。

養成講座には29名が受講し、うち23名（79.3%、3月1日時点）がボランティア登録して、北神日本語教室の活動を開始することができた。

回	実施日	講師	テーマ
①	2019年10月2日(水) 18:30～20:30	土井佳彦さん NPO 法人多文化共生リソースセンター東海代表理事、文化庁日本語教育施策推進アドバイザー	・多文化共生概論 ・北区国籍別在留外国人登録者数推移 ・在住外国人を取り巻く現状と課題 ・地域日本語教室の役割について 等
②	2019年10月9日(水) 18:30～20:30	北村広美さん 多文化共生センターひょうご代表	・日本語ボランティアの心構え、接し方 ・外国人のバックグラウンド ・生活背景に関わる倫理的なこと ・相談をされた時の対応、ケースワーク
③	2019年10月16日(水) 18:30～20:30	奥 優伽子さん NPO 法人神戸定住外国人支援センター(KFC) 日本語プロジェクトコーディネーター	・神戸定住外国人支援センターの取り組み ・識字の重要性 ・災害時に外国人の置かれる状況 ・阪神淡路大震災の経験から
④	2019年10月23日(水) 18:30～20:30	笹川洋子さん 神戸親和女子大学教授 文学部学部長	・外国語教授法の変遷からみる日本語教授法 ・外国語教授法の変遷と現在 ・コミュニケーション・アプローチの可能性
⑤	2019年10月30日(水) 18:30～20:30	服部和子さん NPO 法人実用日本語教育推進協会(THANK'S) 理事	・「やさしい日本語」とは ・日本語を母語としない人への伝える注意点 ・やさしい日本語を体験する ・ボランティア活動者からの話

*場所はすべて、神戸市北神区文化センター 会議室4・5



②地域日本語教室「北神日本語教室」立ち上げ・運営

在住外国人区民が生活や働くうえで必要な日本語を習得できるよう、養成講座を受講した日本語ボランティアが1対1で教える地域日本語教室を、2019年12月に開設。日本語のみならず、暮らしにまつわる生活相談や文化、社会ルールなども一緒に学びあっている。

日 時： 毎週水曜日 18:30～20:00

*新型コロナウイルス禍のため、3月～6月はクローズ

場 所： 神戸市北神区文化センター 会議室4・5

参加者： [各回平均] 外国人約10名、日本人ボランティア約10名(登録18名、7月末時)

広 報： 日本語・英語・中国語・ベトナム語の4言語チラシを作成し、配布

外国籍区民にとって地域日本語教室は、自宅や会社とは異なる「第3の居場所」の機能を持ち、普段の役割から解放された、新しい関係性を構築する機会となっている。日本語を学びながら同国出身者と出迎え、母語で会話でき精神的に落ち着ける場所でもあり、同時に、地域に孤立しがちな在住外国籍区民に寄り添う区民の人材育成につながっていると感じている。



日々の出来事は、「ニュース」として目の前を通り過ぎていきます。そのような日常の出来事の一つが日本で暮らす外国人の方々の存在でした。そんな私に NPO 法人場とつながり研究センターの「日本語ボランティア養成講座」のお知らせが兵庫県国際交流協会や北区役所から届きました。地域の中で何かできることがあるかもしれない、と応募しました。

講座を通して、私たちの住む北区に 2000 人を超える方々が住まれ、「やさしい日本語」を求めていることを知りました。講座終了後は、幸運にもコーディネーターの導きによりステップ・バイ・ステップで「北神日本語教室」に歩みを進めることができました。現在 15 名のボランティア、5 カ国から来られた 10 名の学習者さんと、有意義なつどいの場を育む時間を共有させてもらっています。

【日本語ボランティア 中嶋康之】

③外国人生活相談会の実施 【ひょうごコミュニティ財団「ひょうご・みんなでささえあい基金」助成事業】

外国人住民の日常生活にまつわる困りごと(子育て、学校、仕事、制度、日本語学習等)に対応するため、「北区外国人住民生活相談会」を緊急開催した。新型コロナウイルス禍における各種行政情報の提供や申請書の書き方などもニーズがあると捉え、外国人住民が安心して困りごとを相談でき、自身が解決にむけて適切な一歩目を踏み出せるよう、「母語話者・通訳」の存在と、法律・福祉の専門家との連携が欠かせないと考えて、当団体のネットワークを活かして専門家にも協力を呼びかけて参加いただいた。

日 時: 2020年 7月 24日(金祝) 14:00~16:00

場 所: 神戸市北神区文化センター 会議室4・5

内 容: 生活全般への相談支援(在住外国人の子育て、教育、労働、日本語学習、仲間づくりなど)、特別定額給付金等の申請サポート相談 (相談料:無料)

相談者: 5名

支援者：植草貢さん(弁護士・三田あじさい法律事務所)、狩野和代さん(元国訳支援員)、
 黒川あかねさん(中国語通訳)、デンテ・セバスチャンさん(英語通訳)
 グェン・タンさん(ベトナム語通訳)、小川未佐子さん(日本語教師)
 北神日本語教室ボランティア



6.4. 長尾児童館「子どもヘルパー支援事業」～子どものための児童館とNPOの協働事業

神戸市北区にある長尾児童館のプロジェクト「子どもヘルパー」を支援。子どもヘルパーは、農村地域にある児童館の特性を活かし、ニュータウンにある大規模小学校児童の社会貢献プロジェクトで、①地域の伝統文化の伝承(地域行事体験など)、②多世代交流(未就学児向け、高齢者向けの企画)に加えて、③子どもたちが「こんなことをやりたい！」を実現するプロジェクトとして取り組んでいる。子どもたちの話し合い活動のファシリテーター役や子どもたちの取り組みの補助を行うために、児童館と子どもたちの取り組みを側面的に支援する大学生を派遣している。



6.5. 「ゆりのき台×学生のまちづくりフューチャーセッション」促進事業

「対話のまちづくり」に関心ある学生が集まって、まちの課題や学生の興味関心について地域住民と話し合うフューチャーセッションの準備会を立ち上げ。三田市ゆりのき台地域の住民有志と学生から5人が参加し、実施に向けた準備を進めている。

7. 市民活動及びまちづくりに関する調査研究事業（収益'19：736千円、'18：500千円）

7.1. ユースワーク研究会【ひょうごボランタリー基金助成事業】

市民レベルでの若者支援者の育成、および、一般市民に対する若者の課題についての問題意識を啓発することを目的に、地域住民と学生、NPO、学校、公的機関とが連携して地域の子ども・若者を地域の大人が支えるための「地域連携型若者支援プログラム」の開発を目標に研究会を開催した。2020年度は、これまでの研究結果のまとめとして、冊子を作成する予定。

①若者支援プログラム開発のための研究会

兵庫県内で若者支援の取り組みを行っているメンバーと協働で研究会を開催した。（全5回）

【コーディネーター】小倉祐輔さん・NPO 法人スマイルひろば(尼崎市)

【メンバー】狩野和代さん(元三田市社会福祉協議会 CW) 埜下昌宏さん(大型総合児童館プレミア宝塚)

松木 亮さん(豊中 BBS 代表)

矢野良晃さん(NPO 法人ふぉーらいふ)

小倉祐輔さん(NPO 法人スマイルひろば)

内田扶喜子さん(尼崎市役所 CSW)

7.2. まちなか「資源循環」促進支援事業 ～とくに、遺贈資源仲介研究

相続財産を社会貢献に使いたいと考えている人向けに、専門家や活動団体を適切につなぎ方に関する研究・情報発信を行った。2018年度に、遺贈寄付の一部を当団体に寄付いただいた案件が1件あったことから立ち上げたが、具体的なプロジェクト化には至っていない。

7.3. 居場所研究会

今期は実施なし

7.4. 研究受託

7.5. 市民調査支援

※緊急事態宣言下における、当団体の取り組みについて

「非日常」が起きた時への対応は、「日常からの備え」で決まるとも言われます。新型コロナウイルスをきっかけに、さまざまな「あたりまえ」が変わってしまいましたが、同時に、これまでの「備え」が役に立ったこともあるかもしれません。

NPO法人場とつながりの研究センターは、ゆるやかなつながりづくりを通して、いざというときに頼れるネットワークをまちの中に作り、安心できる仲間づくりと「助けてコミュニケーション力」の向上を目指した取り組みを、子ども・若者・地域住民・外国人など多様な人々を対象に活動してきました。緊急事態宣言下での取り組みを報告するとともに、今回のコロナ禍において、私たちの「日常からの備え」がどのように活かされたのか、また、不十分だったのか、を振り返ります。

新型コロナウイルスおよび緊急事態宣言の流れ

- 1月30日 WHO「国際的な緊急事態」を宣言
- 2月3日 乗客の感染が確認されたクルーズ船 横浜港に入港
- 2月27日 全国すべての小中高校に臨時休校要請の考え公表
→ 翌週 3月2日から臨時休校に(三田市立学校園)
- 3月9日 専門家会議「3条件重なり避けて」と呼びかけ
- 3月24日 東京五輪・パラリンピック 1年程度延期に
- 4月3日 三田市立学校園、再開を決定 → GW明けまで再休校を決定(6日)。始業式・入学式のみ行って休校
- 4月7日 7都府県に緊急事態宣言(兵庫県も)
→ 4月15日、三田市が独自に「非常事態宣言」
- 4月16日 「緊急事態宣言」全国に拡大、
13都道府県は「特定警戒都道府県」に
- 5月4日 政府「緊急事態宣言」5月31日まで延長
- 5月14日 政府 緊急事態宣言 39県で解除
- 5月25日 緊急事態の解除宣言 約1か月半ぶりに全国で解除
- 6月1日 市立学校園再開。分散登校による授業開始
- 6月19日 都道府県またぐ移動の自粛要請 全国で緩和

[出典] NHKweb「特設サイト 新型コロナウイルス」より一部抜粋・加筆
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/chronology/>

1. NPO 支援の取り組み

1. 1. 支援制度情報をまとめ、HP に掲載

NPO を対象とする支援制度のことを知っている団体と知らない(または誤解している)団体の差が大きく、「知っている人が得をする状態」を避ける必要がありました。そこで、国や県、市、助成財団等の支援策情報を集め、当団体のホームページ上にまとめサイトを作りワンストップ化をはかりました。メールニュースでの配信や、市内 NPO 法人への FAX・郵送などによる情報発信も行うことで、“情報難民”となる NPO を少しでも減らそうと取り組みました。

- 子ども向け「自宅学習など、この期間だからこそできること」(3/11、4月21日)
- NPO 向け「市民活動団体のための新型コロナウイルス対応お役立ちサイト」(3/16)
- NPO 向け「3 月末決算法人の、決算対応について」(4/20)
- NPO 向け「NPO 法人も使える資金調達に関する情報」(4/20)
- NPO ワーカー、保護者向け「電話・SNS による相談支援窓口情報」(4/21)

* 日時は初出。その後、必要に応じて加筆修正を行った。

ないか。コロナ復興においてはオール三田での取り組みが必要であるという視点に立ち、いろいろな情報共有、意見交換を行政側、専門家としての NPO、そして市民間で行う仕組みづくりが求められている。

- 例えばコロナ復興について、産官学民で話し合うようなミーティングを、今の時代らしくオンラインで行うことはできないか。そのコーディネータに、例えば子育てなら子育て支援団体に、文化・芸術系なら文化活動支援団体に委託するのも一手である。オンラインミーティングの良さは「小さな声を拾いやすい」点である。参加者がフラットになって発言しやすいのである。この利点を生かした次の世代らしいミーティングの姿を生み出すことは、さまざまな社会解決のきっかけになると考える。

また、団体の理事長・事務局長クラスの「心理的孤立状態」も懸念されたため、コミュニケーションの量を増やして、思いを吐き出してもらえるような機会を積極的に作っていました。

1.4. 「ひょうごみんなで支え合い基金」立ち上げ発起人に

兵庫県下の中間支援団体を中心に、「活動資金に困っている NPO」と「そんな NPO を応援したい人」とをつなぐための基金立ち上げに協力しました。特に、「10万円給付金」を社会のために役立てたいという声が当団体にも寄せられ、その一つの受け皿として立ち上げたものです。



また、(社福)三田市社会福祉協議会に対し、①「善意銀行」の枠組みを活かした同様の基金づくり、②地域助け合い活動を行う市民グループへの助成、の提案を行いました。①は残念ながら現在まで進捗がありませんが、②は形が変わって実現しました。

2. 子ども・若者支援の取り組み

2.1. まなびあは事務所でちんまりと実施

三田市立学校園が3月2日より休校となり、子どもたちにとっては一足早い「春休み」が来ました。しかし、こういう社会情勢だけに、休みを心から楽しめる状況ではなかったでしょう。「子どもの遊び場はどこにあるのだろうか?」、「子どもが自分の気持ちを吐き出せる相手はいるのだろうか? 寄り添える人はいるのか?」という心配がありました。

そこで、右のような張り紙を貼り、三田まちの寺子屋「まなびあ」は事務所で実施しました。勉強だけでなく、子どもたちに寄り添い話を聴くことを大切にして扉を開け続けていました。



2.2 子どもの「食の支援」プロジェクト

休校に伴い、「給食がなくなって、食は大丈夫なのだろうか？」という心配がもう一つありました。そんな折、4月10日にまなびあに通っている中学2年生の欠食状態が発覚し、緊急の食事支援を地域住民と相談し、①魚を与える(食卓で食べるありがたみを感じる)ことと、②魚の釣り方を教える(料理教室の開催)ことの両面からアプローチすることにしました。

- ①地域交流拠点「三田じばやんクラブ」副代表で、三田小学校地域ボランティアコーディネーターの大東真弓さん宅にお邪魔し、夕食をテーブル囲んで家族と一緒に食べました。4月22日から5月末まで週2回お邪魔しました。その後、週1回食材を届けてくださって、それを事務所で調理する「かんたんクッキング」へと移行しました(7月末まで実施)
- ②元相談支援員の狩野和代さんにご協力いただき、事務所で週2回料理教室を行いました(Taro's Kitchen)。献立決めから食材購入、調理、配膳、片付けまでを一緒に取り組んでいただき、その過程で彼の「つぶやき」を多く拾っていただきました。学校再開後も、月に2回程度継続して取り組んでいます。



①と②を組み合わせ、週3日分の食の保障は担えました。彼は私たちに「助けて」とメッセージを出すことができたので、支援につながることができましたが、何も声を出せずに苦しんでいた子が他にも多くいたのではないかと思います。次の緊急休校が起きた時に備えて、家族の力が弱くなった子どもに対して、地域がどのような手を差し伸べられるか、その具体的なありかたを検討していきたいと考えています。

なお、地域日本語教室は施設休館に伴い3月～5月休講、この間、外国人住民が情報難民・孤立状態にならないかが心配でした。そこで、行政施策情報等をやさしい日本語で届ける「お手紙プロジェクト」を実施し、外国人住民の不安を取り除く取り組みを行いました。外国人住民の孤立を生まないための取り組みを体系的にできるよう、検討していきたいと考えています。

■ 管理および法人運営部門

1. 会員の状況 (収益 '19 : 105 千円、'18 : 60 千円)

正会員は、期初時点で 17 名であったが、2 名減、3 名増の 18 名となっている。
賛助会員は、北神日本語教室のボランティアが賛助会員として加入し、18 名となっている。

2. 寄附の状況 (収益 '19 : 797 千円、'18 : 1,647 千円)

持続化給付金を除くと、今期も収益の約 15%を占めるなど法人運営の土台となりつつある。
今後の活動に充ててほしいと活動謝金をそのまま寄付して下さった方も多くいらっしゃった。
支援の広がりをいっそう求めていきたい。

3. 会議に関する事項

総会および理事会を下記の通り実施。理事会ではメーリングリストで情報共有・意見交換を適宜行っている。

	日時	会場	備考
総 会	2019 年 10 月 13 日	三田ほんまち交流館「縁」	通常総会
	2020 年 5 月 24 日	三田ほんまち交流館「縁」、ZOOM	定款変更のための臨時総会
理 事 会	2019 年 9 月 2 日	ほんまち事務所	
	2020 年 2 月 10 日	ほんまち事務所	
	2020 年 5 月 28 日	ZOOM	
	2020 年 7 月 24 日	ZOOM	

4. 他団体との連携・協力

以下の組織・ネットワークに所属し、適宜情報交換や事業連携を行っている。

- 車瀬橋商店街
- 三田本町通商店街(準会員)
- 三田市商工会
- ひょうご子育てコミュニティ
- ひょうご市民活動協議会
- 阪神北中間支援ネットワーク
- 三田地区県民交流広場「じばやん倶楽部」運営委員
- 三田小学校コミュニティスクール運営協議会 運営委員
- (社福)三田市社会福祉協議会 評議委員
- 大阪ボランティア協会 情報誌「Volo」編集委員
- コープともしびボランティア振興財団 運営委員
- 三田市／三田市市社協 地域福祉計画審議会 委員
- 三田市子ども子育て計画審議会 委員
- 神戸市認定 NPO 取得支援アドバイザー
- 神戸市 NPO 活動支援アドバイザー

■ これまでの業績推移

	収益	経常収支差額	主な事業等
2006年度	6,192,761	△960,814	市民活動推進プラザ運営
2007年度	9,339,984	137,083	地域 SNS「さんでい」立ち上げ
2008年度	17,329,561	△347,523	総務省「地方の元気再生事業」
2009年度	17,053,023	66,850	
2010年度	49,197,634	△2,257,061	総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」。他、3つの緊急雇用事業
2011年度	20,208,730	△961,253	市民活動推進プラザ、受託終了。ほんまち移転
2012年度	5,412,920	△1,222,338	ひょうごコミュニティ財団設立支援
2013年度	4,823,671	407,254	居場所研究会、まなびあ設立
2014年度	3,470,315	630,174	中堅スタッフ育成、まなびサタデースクール
2015年度	4,228,054	717,566	気づきの事例検討会
2016年度	4,180,558	116,841	対話の場づくり・フューチャーセッション、がんばりタイム
2017年度	4,134,888	313,566	学習支援ハンドブック、遺贈資源仲介、都市政策演習
2018年度	5,087,612	1,246,810	対話の場づくりハンドブック・ユースワーク研究会
2019年度	6,480,788	1,720,460	日本語ボランティア養成講座、北神日本語教室 児童館支援、緊急事態宣言下の支援活動

以上